

# 自民国会、次々“復活”

## 山際氏ら支部長に選任

1800人―自民党が2023年9月30日に公表した「点検」結果(追加報告を含む)で、統一協会(世界平和統一家庭連合)と接点があった国会議員の数は、自民党は、事実上、解明や国民への十分な説明がないまま、統一協会と接点のあった議員らを次々と、次期衆院選の候補者となる支部長に決定しています。政治家との結びつきが、盛感商法や洗脳によるメンバー獲得などの反社会的活動を支えてきたことへの反省がありません。

自民党はこれまで批判を受けて、自己申告による「点検」を実施してきました。その中で、自民党所属の議員1800人が同協会と関係を持ったとされています。このうち、氏名公表されている77人を次期衆院選の候補となる支部長に選任。選出区は31都道府県におよび、神奈川県が9人と最多です。中には、同協会との癒着関係を指摘され、関係を断った山際大志郎元経済再生相(神奈川県18区)をはじめ、秋生田光一政調会長(東京24区)、下村博文元文科相(東京11区)、平井卓也元デジタル相(香川1区)ら関係経験者がずらりと並んでいます。

これに終始し、関係断任後も説明責任を果たしていません。SNSでは、同氏が神奈川県18区の支部長となったことに対し「自民党は反省していない」「自民党は統一協会を容認するのか」など批判の声が上がっています。(2面13ページ)

# 統一協会と接点あり

自民党はこれまで批判を受けて、自己申告による「点検」を実施してきました。このうち、氏名公表されている77人を次期衆院選の候補となる支部長に選任。選出区は31都道府県におよび、神奈川県が9人と最多です。中には、同協会との癒着関係を指摘され、関係を断った山際大志郎元経済再生相(神奈川県18区)をはじめ、秋生田光一政調会長(東京24区)、下村博文元文科相(東京11区)、平井卓也元デジタル相(香川1区)ら関係経験者がずらりと並んでいます。

### 関係絶たないことの表れ

統一協会問題に詳しい  
ジャーナリスト

鈴木エイト氏



統一協会と接点のあった自民党議員は「教団」という一筋縄で関係を断ったか、根本的な部分を説明していません。「説明」が単なる弁明にすぎない事実、今回、各選挙区の支部長に選任されたというのは、同党が本気で教団と関係を絶つていない

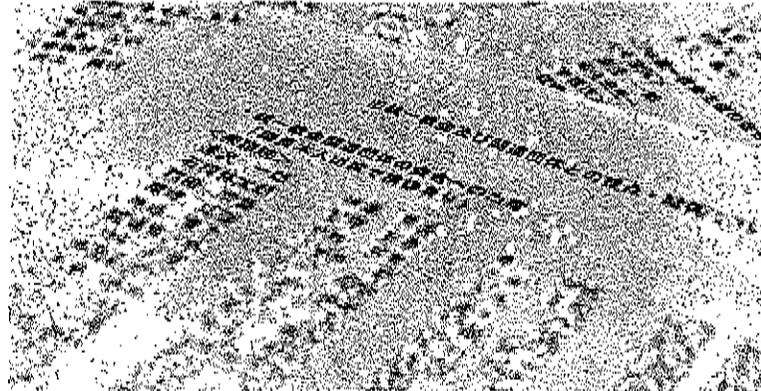
ことの表れです。自民党は昨年、「点検」ということで、所属議員に簡単なアンケートをしました。「誰の指示で参加したのか」「秘密の受け入れ」などの項目が

なく、調査対象が「自民党に所属している議員」のみでした。一時的に党籍を離れている細田博之衆院議員長や亡くなった安倍晋三元首相を調査対象外とし、簡単な点検で済ませようとしたことが問題です。反社会的な団体と関係を断つていないことを、当選を争う際には最も許されなことです。梅極書は投票の際、「教団と関係を絶つていない候補者」に対して、ノーを突きつける必要があるのではないのでしょうか。

# 自民の統一協会接点議員 相次ぐ支部長選任

## 一面のつづき

自民党は当初、179人の議員に統一協会と接点があったと公表(2022年9月8日)。しかし、外部からの指摘で木原誠二官房副長官(東京20区)が「記憶が」呼び覚まされた(22年9月12日)と追加報告するなど、「点検」は杜撰(ずさん)なものでした。また、自民党所属の



自民党の「点検」の結果発表された統一協会と関係のあった議員のリスト

## 組織的・政策的癒着 未解明のまま

議員にもかわらず、衆院議長として会派を離脱しているとして「点検」に含まれなかった細田博之氏(鳥根1区)に対する追及も不十分です。細田氏は、同協会の関連団体の会合に出席していただけでなく、関連団体の名誉会長を務め、「清和政策研究会」(現・安倍派)の元会長(14~21年)として、選挙の際に統一協会の票を差配した疑感があります。細田氏は、統一協会と極めて深い関係があったことを認める文書を発表しましたが、自らは一言も説明せず、次期衆院選へ出馬しようとしていま

改正し、安全保障体制を強化②家庭教育支援法・青少年健全育成基本法を制定③LGBT問題、同性婚合法化の慎重な扱い④「日韓トンネル」実現を推進⑤国内外の共産主義勢力の攻勢阻止—など反共反動の政策を列挙していました。同確認書に署名した議員には、大串正樹(茨城1区)、山田賢司(外務副大臣(兵庫7区))がいます。同確認書への署名は「点検」項目に含まれておらず、大串氏については党の「点検」では明らかにされていません。

岸田文雄首相は同協会との「関係を絶つ」と言いますが、関係を絶つどころか、全容解明はまったく進んでいません。同協会と自民党の癒着を本当に断ち切る気があるのなら、総選挙前に徹底的な全容解明をすべきです。

自民党はこれまで同協会と癒着し、多大な物的・人的支援を受けながら選挙戦をたたかってきました。そのことを隠付けるものが、「政策協定」である推薦確認書です。同確認書は、①憲法を